

IV-243

駅前広場景観の調査手法と景観評価に関する研究

横浜市役所 正員 ○小島 淳
 (株)東急建設 正員 鴨志田 徹
 東京都立大学 正員 山川 仁
 東京都立大学 学生員 琴 基 正

1. はじめに

1. 1 研究の背景と目的

従来までは景観を評価する場合に写真やスライドを使って行っていたが、駅前広場等のワイドな空間を考えた場合、写真やスライドによる景観提示ではその空間全体を表現することが難しい。

本研究では都市景観を構成する際の重要な要素となる駅前広場景観を取り上げ、その景観提示方法にVTR（ビデオ・レコーダー）を使用し、駅前広場の景観提示におけるVTRの有用性を探ることを目的とする。

1. 2 研究の方法

本研究ではまず第一に、スライド提示、映像固定提示、映像移動提示の3提示方法により景観評価実験を行ない、各提示方法が景観の評価に与える影響を把握する。第二に、各提示方法と現地評価を比較して現地における景観評価にもっとも近い景観評価が行なわれる提示方法を見出す。

2. 駅前広場景観の構成要素

駅前広場を駅前広場空間として捉え、次のように駅前広場を定義する。本研究では、駅前広場の景観を空間的に構成する要素を鉄道敷、駅本屋、駅前広場、周辺建築物、街路の5つとする。（図-1）

3. 景観提示方法の比較

3. 1 景観評価実験

VTRの提示にはプロジェクターを用い、各提示方法の提示時間は90秒に統一した。景観提示終了後に評価を行なったが、評価方法は7段階SD（セブティックディアルシヤル）法を用いた。評価項目はプレーン・ストーミングにより選定された14項目に総合評価を加えた15項目とした。各実験の概要を表-1に示す。

3. 2 調査対象駅前広場

景観提示方法の比較に関する調査の対象駅前広場は、①駅前広場の面積、②駅の形態、③街路の取り付き方、④駅前広場における交通処理の形態の4つ

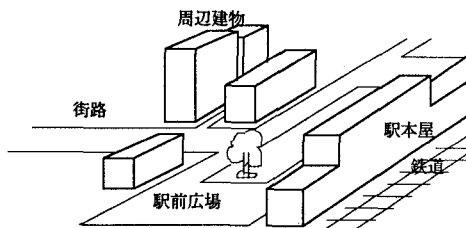


図-1 駅前広場景観の空間的構成要素

表-1 景観提示方法の比較に関する調査

調査	日時	調査対象者	調査方法
予備調査	H2.10.7	都立大学 院生 17人	・ 疑似空間実験（スライド・TV ・ 7段階SD法 計3方法）
本調査	H2.11.19	都立大学 学生 81人	・ 疑似空間実験（スライド・プロジェ ・ 7段階SD法 ・ クター計3方法）
	H2.11.21	都立大学 院生 11人	・ 疑似空間実験（スライド・プロジェ ・ 7段階SD法 ・ クター計3方法）
	H2.11.25	世田谷市民大学 受講者43人	・ 疑似空間実験（スライド・プロジェ ・ 7段階SD法 ・ クター計3方法）
	H2.11.30	世田谷市民大学 受講者8人	・ 疑似空間実験（スライド・プロジェ ・ 7段階SD法 ・ クター計3方法）
現地調査	H2.11.27 - 12.20	都立大学 学生 21人	・ 現地実験 ・ 7段階SD法

表-2 対象駅前広場の概要

駅名	駅形態	街路との関係	広場面積	交通処理形態
たまプラーザ	橋上式	並行	6,800	別ルート型-バ・タ・自
十日市場南口	掘削式	斜行	5,000	ダブルルート型-バス・タ
本郷台	高架式	並行	6,450	トリプルルート型-バ・タ・自
緑園都市北口	高架式	並行	5,100	ワンルート型-バス・タ
根岸	路面式	直行・並行	5,900	トリプルルート型-バ・タ

の点を考慮して表-2に示すような5つの駅前広場とした。

3. 3 各評価項目の平均値による比較

景観評価実験の結果から、駅ごとに評価項目の平均値を求めて平均値の差の検定（t検定：危険率5%）を行った。結果を表-3に示すが、スライド提示と映像固定提示、スライド提示と映像移動提示の

比較において多くの評価項目に有意差が見られ、映像固定提示と映像移動提示では有意差が見られた評価項目は少なかった。

表-3 各評価項目の平均評定値の差の検定

平均評定値の差の検定(スライド提示と映像固定提示)

評価項目	本場台	豊 彦	十 日	たまプラーザ	十日市
1. 騒然とした	●	●	●	●	●
2. にぎやかな	●	●	●	●	●
3. 見通しの良い	●	●	●	●	●
4. 親近性	●	●	●	●	●
5. 色が統一された	●	●	●	●	●
6. 親しみやすい	●	●	●	●	●
7. 広場全体がきれい	●	●	●	●	●
8. 活気のある	●	●	●	●	●
9. 好き	●	●	●	●	●
10. 開放的な	●	●	●	●	●
11. 緑が多い	●	●	●	●	●
12. 駅舎が個性的	●	●	●	●	●
13. のびのびした	●	●	●	●	●
14. 嫌い	●	●	●	●	●
15. 総合的に良い	●	●	●	●	●

● - 有意差あり(危険率5%)

平均評定値の差の検定(スライド提示と映像移動提示)

評価項目	本場台	豊 彦	十 日	たまプラーザ	十日市
1. 騒然とした	●	●	●	●	●
2. にぎやかな	●	●	●	●	●
3. 見通しの良い	●	●	●	●	●
4. 親近性	●	●	●	●	●
5. 色が統一された	●	●	●	●	●
6. 親しみやすい	●	●	●	●	●
7. 広場全体がきれい	●	●	●	●	●
8. 活気のある	●	●	●	●	●
9. 好き	●	●	●	●	●
10. 開放的な	●	●	●	●	●
11. 緑が多い	●	●	●	●	●
12. 駅舎が個性的	●	●	●	●	●
13. のびのびした	●	●	●	●	●
14. 嫌い	●	●	●	●	●
15. 総合的に良い	●	●	●	●	●

● - 有意差あり(危険率5%)

平均評定値の差の検定(映像固定提示と映像移動提示)

評価項目	本場台	豊 彦	十 日	たまプラーザ	十日市
1. 騒然とした	●	●	●	●	●
2. にぎやかな	●	●	●	●	●
3. 見通しの良い	●	●	●	●	●
4. 親近性	●	●	●	●	●
5. 色が統一された	●	●	●	●	●
6. 親しみやすい	●	●	●	●	●
7. 広場全体がきれい	●	●	●	●	●
8. 活気のある	●	●	●	●	●
9. 好き	●	●	●	●	●
10. 開放的な	●	●	●	●	●
11. 緑が多い	●	●	●	●	●
12. 駅舎が個性的	●	●	●	●	●
13. のびのびした	●	●	●	●	●
14. 嫌い	●	●	●	●	●
15. 総合的に良い	●	●	●	●	●

● - 有意差あり(危険率5%)

3. 4 因子分析による評価構造比較

各評価項目の評定値により各提示方法別に因子分析を用いて評価構造による比較を行なった。固有値1.0以上の因子を共通因子とした結果、2つの因子が抽出され、その因子軸に対して比較因子負荷量が高かった評価項目を表-4に示すが、駅前広場の景観意識はこの5つの因子軸で説明できると考えられる。表-5に駅別提示方法別の因子軸(十日市場駅)を示すが、提示方法の違いによって、同じ駅前広場でも景観評価構造に違いが出てくることが明らかとなった。

3. 5 現地評価と各提示方法の比較

駅ごとに3つの提示方法によって得られた景観評価と現地における評価を比較するため、それぞれについて各評価項目の平均値の差の検定(t検定, 危険率5%)を行った。ただし、データは現地実験を行った者のみのデータを使用した。表-6にも検定(危険率5%)の結果を示すが、各提示方法の評価と現地評価で有意差があった項目が多かったのはスライド提示であり、一番少なかったのは映像移動提示である。このことから映像移動提示によって得られた評価が現地評価に一番近いと考えられる。

4. まとめ

景観評価実験における景観提示方法を比較し、同じ景観対象でも提示方法によって景観の評価に差がでることがわかり、景観評価手法におけるVTRの有用性を示すことができた。

5. 今後の課題

景観調査手法に関しては景観評価実験において提示される景観と実際の景観(現地の景観)との差を少なくするような景観の撮影方法もしくは提示方法の確立が課題となる。

表-4 因子軸と因子負荷量の高かった評価項目

因子	評 価 項 目
A 美 観 性	広場全体がきれい 不快い のびのびした 好き 整然とした
B 親 近 性	嫌い 親しみにくい 不快な
C 広 場 性	閉鎖的な 見通しの悪い のびのびした
D 活 力 性	にぎやかな 活気のない 活気のある
E 個 性	個性的な 駅舎が個性的な 駅舎がありふれた

表-5 駅別提示方法別因子軸

駅前広場	提示方法	因子I	因子II
十日市場	スライド	美観性	親近性
	映像固定	広場性	活動性
	映像移動	親近性	活動性

表-6 提示方法別現地との差の検定

形 容 詞 対	本 場 台	豊 彦	十 日 市	たまプラーザ	十日市場
	スラ:固定;移動	スラ:固定;移動	スラ:固定;移動	スラ:固定;移動	スラ:固定;移動
騒然とした	●	●	●	●	●
にぎやかな	●	●	●	●	●
見通しの良い	●	●	●	●	●
ありふれた	●	●	●	●	●
色の統一された	●	●	●	●	●
親しみやすい	●	●	●	●	●
駅舎全体がきれい	●	●	●	●	●
活気のない	●	●	●	●	●
好き	●	●	●	●	●
開放的な	●	●	●	●	●
緑が少ない	●	●	●	●	●
駅舎が個性的	●	●	●	●	●
のびのびした	●	●	●	●	●
嫌い	●	●	●	●	●
総合的に良い	●	●	●	●	●

● - 有意差あり(危険率5%)

【参考文献】

- 1) 建設省土木研究所「駅前広場の景観計画」1987
- 2) 篠原「新体系土木工学59-土木景観計画-I」
土木学会編 技法堂出版
- 3) 鳴海ら「景観提示方法による街路景観評価実験
に関する比較研究」昭和60年度都市計画学会論文集